



Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.33 2023. 3. 26 発行

「つなぐ」・「つながる」

ルカによる福音書23章39～47節

ごきげんよう!

牧師 梅津 裕美

今年は4月2日(日)が棕櫚の主日(しゅろのしゅじつ)と呼ばれて、イエスさまがエルサレムにお入りになってから十字架につけられて死ぬまでの受難週を迎えます。復活祭(イースター)の前の1週間のことをそう呼んで、教会ではイエスさまの受難に深く感謝する時を過ごします。

みなさんがよく知っている「十字架」は、教会やキリスト教を表す印(しるし)のようです。では、それは何のためだったのでしょうか。これまで1年間旧約聖書を学んできましたが、そこには神さまの愛のみこころに背いて、神さまから離れてしまった人間の罪の姿がたくさんありました。人間に罪が入ったために、罪を拒む聖なる神さまにつながろうとしてもつながることができなくなった人間の惨めな姿がつづられていました。

自分の力では、神さまにつながることができない人間を救うために、神さまはご自分の独り子イエスさまを遣わしてくださいました。そして、私たちの身代わりとして十字架で罪の罰を受けさせて、私たちの罪の負い目を無しにしてくださいました。それまで、聖なる神さまとつながることをはばんでいてもものが無くなって、神さまにしっかりつながることができたのです。命の造り主、全能の神さま、愛の神さまとつながることは、私たちのすべてが救われたということです。私たちは「つながる」喜びをもう一度、確認しませんか？

私たちは日々の暮らしで、「つながる」ことをどれくらい意識しているでしょうか？ おそらく自分が「いや」と思うものとはつながりたくない。つながろうとはしなくなる。…それは、つながる可能性を捨てることです。イエスさまの十字架によって決してつながるはずがない神さまにつないでいただいた私たちは、神さまから「つなぐ」務めを託されています。それは、自分の周りの人々へイエスさま、神さまにつながる喜びを伝える務めなのです。



堀内長老からのメッセージ

新年度になりました。2023年度は主の祈りと使徒信条についてみ言葉に聞きます。4月16日から2か月間は主の祈りです。主の祈りはイエスさまが弟子たちに「こう祈りなさい」と教えてくださった大切な祈りです。私たちは毎日の生活の中で、落ち着いて安心できるような時は感謝の祈りをささげることができます。しかし、反対に失望や悲しみに出会った時は、祈ることばが出てこない時もあります。そのようにこそ、私たちは心から主の祈りを祈ります。3年前、2020年の今ごろは新型コロナウイルスの感染が世界中で広がり始め、私たちはこれから世界はどうなるのか、非常に不安な気持ちになりました。この時にも、私たちは主の祈りを祈ります。2020年3月、カトリック教会のフランシスコ教皇は3月25日の正午(イタリア時間)に全世界でいっせいに主の祈りを祈ることを呼びかけました。教会や国の違いを超えて、そしてどのような時代も、私たちが喜びに満たされている時も、悲しみや不安の中にいる時も、イエスさまが教えてくださったとおり、主の祈りを祈り続けるのです。

